

写真 『日本人の読み書き能力』

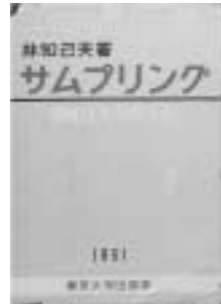


写真 『サムプリング - 調査はどう行うか』

の分析を目的に提唱された外的基準のある判別分析手法、のちに数量化Ⅱ類と俗称される手法の原型である。当時の法務府中央矯正保護研修所(現、法務総合研究所)との共同研究の報告書がある「假釋放の予測、研修資料第1輯(1949)」「再犯調査の基礎 - 豫測方法の展開」(1950))

パターン分類の数量化(数量化Ⅲ類)も実用の場面から生まれた。ある水産会社の缶詰ラベルのデザイン評価、つまりよいデザインと悪いデザインとは、どのように客観的に評価分類できるのか、この分析の多次元データ解析手法として提案された。数量化Ⅲ類はフランスのBenzécriの提唱した対応分析法(コレスポネンス分析)の同等手法として知られるが、遡ること10年近くも早くに実用場面に適用し、登場したことが、国際的評価を高めるきっかけとなった。

こうした一連の数量化法関連の研究論文の多くは、統計数理研究所講義録、統計数理研究所彙報および編輯で報告されている。このほか、数量化法やその思想・考え方をまとめた「数量化と予測に関する根本概念(統計数理研究所彙報)一連の著作『数量化の方法』『データ解析の考え方』『数量化 - 理論と方法 - 』が刊行され、1990年代以降、それまでの研究の体系化として提唱された『データの科学』(data science)の思想となって登場するのである。そして、これが先生の単著としての絶筆となった(写真)。一連の数量化法、とくに数量化Ⅲ類が市場調査分野のデータ解析場面で果たした役割はきわめて高い。また

その後に登場し、市場調査分野に普及・利用されているさまざまな手法(双対尺度法、等質性分析、多重対応分析法等)の原点となった。

データベースの特徴

著作データベースの具体的な機能については、いずれ広報の予定であるので、ここではごく簡単に要約しておく。

- ・簡易リレーショナル・データベース・ソフト(FileMaker Pro)を用いている。このソフトはWindowsとMacintoshとの互換性が高く、操作性もよい。
- ・データベース上の情報を必要に応じてテキスト・ファイルあるいはエクセル形式のファイルとしてエクスポートし、提供可能である。
- ・既刊の『林知己夫著作集、全15巻(勉誠出版、2004)』に収録の掲載情報との照合が可能。つまり、この全集に収録の文献資料の現物の有無が確認できる。

今後のこと — 情報開示に向けて —

本著作ライブラリーに保管の資料類およびデータベースは、協会関係者(会員)および一般に公開される予定である。本協会のホームページ上で案内を行うこと、文献・資料類の閲覧および必要に応じてコピーを有料で提供するなどを用意している。具体的な情報公開の方法については、いずれ、当協会のホームページなどで広報の予定である。協会のホームページ情報を一部の学会にリンクすることなども検討している。

むすびにかえて

林先生の一連の研究を著作ライブラリー、データベースというアーカイブを通して改めて俯瞰すると、戦後から現在に至る日本の統計学やデータ解析の発展そのものように見える。調査方法論や数量化法の基礎研究だけでなく、社会学、心理学、自然科学など、広範にわたる応用研究の成果が、戦後日本のこの分野の研究進展のなかで重要なランドマークであったことが見えてくる。現在の統計学や調査関連分野が直面している多くの難問や閉塞感、とくに調査環境の悪化については、早くからその予兆を指摘し、関係者の真剣な取り組みを喚起しておられた。晩年には、こうした危機的状況をブレイクスルーする方向、解決の道筋の一つとして「データの科学」を提唱されてきた。その精神は調査の原点である自らが汗して正確なデータを科学的に集めることであり、今さらながら、その先見性には頭がさがる。

この著作ライブラリーとデータベースが、今後の調査方法論の実用化研究の進展の一助として関係者各位に有効に活用していただければ、これに勝るものはない。

謝辞

林知己夫著作ライブラリーの開設・保管管理と著作データベースが実現できたことは、ひとえに本協会の田下憲雄会長、役員各位、それに事務局長立石憲彰氏をはじめ、事務局スタッフ諸氏のご理解の賜物である。合わせ



写真 『市場調査の計画と実際』



写真 『市場調査事始め』と表題の墨書

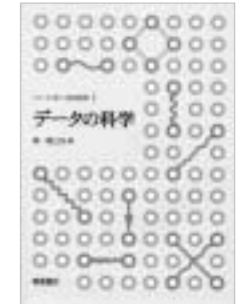


写真 『データの科学』

て高柳忠明前事務局長のご尽力とご支援に厚く御礼申し上げます。そしてなにより、貴重な著作・資料類のご提供を快諾いただいた故林知己夫先生ご家族のご厚情に改めて御礼申し上げます。

また、電子ファイル化、データベース記録情報と原本類との気の遠くなるような照合確認にあたっては、村石明彦氏(システム・サポート)、竹下良子さん、林なおみさんのお手をわずらわせた。これらの皆様にもこの場をお借りして、御礼申し上げます。

参考資料

- 1 鮑戸 弘(2002) 林知己夫先生が残されたもの、マーケティング・リサーチ、93号、38-40。
- 2 大隅 昇(2002) 林知己夫先生と多次元データ解析 - 数量化法、データ解析、そして分類からデータの科学へ -、マーケティング・リサーチ、93号、41-45。
- 3 森本栄一(2005) 戦後日本の統計学の発達 - 数量化理論の形成から定着へ、行動計量学、32巻1号、45-67。

大隅 昇(おおすみ のぼる)

1972年、文部省統計数理研究所(現:情報・システム研究機構)第4研究部研究員。85年、同調査実験解析研究系助教授。91年、教授を経て2004年4月から名誉教授。理学博士、専門社会調査士。

森本 栄一(もりもと えいいち)

1999年、東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻博士課程修了(単位取得) 日立製作所を経て、2003年、ビデオリサーチ入社。現在、同社研究開発局研究開発部副主事、専門社会調査士。